

3 学年通信

4月第9号

苦手科目克服特集号①

川崎市立川崎高等学校新3学年
4/27 発行 担当 畑中久枝

第8号で、苦手科目克服のメリットについて書きました。今回からその続編として、先生方の苦手科目克服法やアドバイスを連載します。自分に合いそうな方法があったら取り入れてみましょう。みなさんにとって、苦手克服のきっかけになれば幸いです。在宅勤務に因んだ自撮り写真付きです。

八巻 黛佳 先生より



私は数学が苦手でした。高一前期の数1で2を取ってしまったほどです。ただ、当時の数学の先生が本当に良い人で、先生が嫌いだったわたしが珍しく懐いた貴重な先生のうちの1人だったので、この人を悩ませてはいけない……！と思い、やまきの苦手克服チャレンジ season1 が始まりました。まず、その先生に「君は公式とか、何がどうしてこうなるのかという過程はよく理解しているから、もっと点数取れるはずだよ。」と言われたことにより、自分は数学できる……！という暗示をかけました。(非科学的ですみません。)(ここから垣間見えるポテンシャルの低さ)そしてとにかく自分に足りないのは演習だ！と気づき、同じ問題も類題も何度も繰り返し解くようにしました。何度も解いているうちに、答えが合っていたときの快感がくせになり、気づけば「苦手だから何度もやらなくちゃ」ではなく「楽しいからいっぱいやろう！」に変わり、高一の学年末には無事に3を頂くことになりました。そして苦手克服チャレンジ season2。高二になり、数学はわかると楽しいからいっぱい演習するぞ～(ルンルン♪)期に入った私は無敵でした。苦手だったはずなのに、なんと数Bで4を頂くことができました。これはほとんどの科目が4か5なのに理数科目だけ2か3だった私にとっては大逆転ホームランでした。この経験は大人になってからも活きていて、教員採用試験の一般教養に含まれている数学の勉強にもつながりました。挫けそうになっても「あのとき大逆転したんだから、今でもできるはず！！」と、またしても根拠の無い自信からくる自己暗示をかけて前向きに取り組むことができました。根拠は無かったけれど、なんとか合格し、今こうして皆さんと共に過ごせていることを幸せに思います。



基本的に私はポテンシャルが低いので、雑草魂で、気合いや根性でどうにか乗り越えてきたことが多いように思います。部活や習い事で死ぬ気で練習しまくった根性をそのまま勉強に置き換えて死ぬ気で演習しまくりました。ということで、英語が苦手な皆さん！まずは Scramble とオトモダチになろう。

Scramble は、
トモダチ。

Roger!



(HB もちょっと盛ってみました。)

■学校では……

みなさんの HB も教室も、新築の頃と同じくらいピカピカになっています。みなさんがいない間に、メンテナンスの方々が磨き上げてくれました。その上、毎日のように掃除してくださっているんですよ。学校に関わる人たちみんなが、それぞれの仕事を積み重ねながら再開を待っています。もちろん、先生たちもね。

(畑中)